

2015 年度

訪中団 感想文集

廈門 5日間

日中經濟交流研究会

訪中団感想文集

Index

2015年度 日中経済交流会 訪中団スケジュール	2
カワモト・マニュファクチャリング(株) 中野 幹生	3
三恵ハイプレシジョン(株) 落合 良寛	5
(株)電研社 野村 明宏	6
(株)豊田製作所 豊田 浩二	7
福地金属(株) 福地 守	8
ソリッド(株) 徳岡 達人	9
藤田 美保	10
法円坂法律事務所 中島 宏治	11
K総合会計 大塚 教進	12
大山印刷(株) 大山 武久	12
赤木法律事務所 赤木 麻衣子	13
西岡化建(株) 西岡 洋子	14
坂元鋼材(株) 坂元 正三	15
三和防錆工業(株) 熊谷 蘭子	16
アベル(株) 居相 浩介	16

訪中団感想文とは…

始まりは、2010年の訪中団でした。蘇州、上海の企業訪問や中国の人々との交流は、参加者に大きな刺激を与えました。また、5日間にわたり寝食を共にし、語り合うことは“大人の修学旅行”と呼ばれるようになりました。そこで、この貴重な体験を感想文集という形で残そうという気運が生まれました。それから今回で6回。参加者が自分の感じたこと気づいたことを、自分の言葉で表現しています。ぜひ、同友会の会員のみなさまには一読してもらいたいと思います。



廈門興和洋傘有限公司にて

アモイ 訪中団スケジュール

日付	タイムシフト	予 定	移動手段
10月31日(土)	7:15	関空集合 4階 Gカウンター前	各自
	9:00	関空発	CA162
	11:20	北京着	
	16:25	北京発	CA1815
	19:20	廈門空港着	
	21:00	ホテル着	専用バス
11月1日(日)		視 察	専用バス
		(1) 南普陀寺	
		(2) 廈門大学	
		(3) コロンス島	
11月2日(月)		視 察	専用バス
		(1) 廈門立青石制品有限公司	
		(2) 廈門広印工貿有限公司	
		(3) 廈門精一誠金属制品有限公司	
		(4) 上海アルプス物流国際貨運代理有限公司	
		(5) 廈門日本商工倶楽部	
11月3日(火)		視 察	専用バス
		(1) 廈門興和洋傘有限公司	
		(2) 廈門碧爾諾服装有限公司	
		(3) 酒肴「浪速亭」	
		(4) 廈門城市職業学院	
		(5) 盈科法律事務所	
11月4日(水)	5:00	ホテル発	専用バス
	8:00	廈門空港発	CA978
	10:55	北京着	
	16:05	北京発	CA161
	20:20	関空着 解散	

全宿泊 日東花園酒店

訪中団(厦門)に参加して

カワモト・マニュファクチュアリング(株) 中野 幹生

今年度の訪中団は、台湾の対岸に位置する福建省の厦門(アモイ)を訪れました。

厦門は大阪の南東2,000キロに位置します。ところが飛行機はなぜか北西2,000キロの北京を目指します。直前になって関空-厦門の直通便が利用者の減少によって廃止され、日程を変えない限り北京経由の便を利用するしかなかったのです。旅は波乱の幕開けでした。

5年ぶりに訪れた北京の空は驚くほど透き通っていました。冬の北京の大気汚染は深刻なことで有名ですから、投資や産業活動がそこまで低迷しているのかと心配になります。(その心配は杞憂で、帰路の北京空港は深い霧に包まれていました)



朝の公園(厦門)



水と緑のリゾート(厦門)



北京の空(往路)



北京の空(復路)

北京でトランジットのあと、再び2,000キロの航程を南下して厦門に至ります。

10月の厦門は穏やかな気候で、緑豊かな街でした。瀬戸内に似た穏やかな山々連なりが、間近に見えて、日本人にとっても馴染み深い印象を与えています。海岸沿いは神戸や横浜と似た雰囲気です。

厦門は古くから日本との交流が深く、遣唐使・遣隋使の時代には、織物や香料、薬、仏具、経典・書籍などが輸出され、日本からは銀や織物が輸入されたようです。この地域で話される「閩南語」(びんなんご)は、唐の時代の漢字の発音を今に伝えていることから、日本語と同じ読み方をする言葉も多いようです。なかでも、ガイドさんの発する数字の読み方(イチ・ニー・サン・シー...)は、日本人が聞いても違和感のないほどの類似を見せています。「数」の概念は貿易に不可欠ですから、ここでも2,000キロの海を隔てた地域交流が偲ばれます。

さて、僕にとって今回の訪中の核心は、高級洋傘を製造販売しておられる「カムクロス株式会社」の今中社長が経営する現地法人、「興和洋傘有限公司」さんへの訪問に尽きるでしょうか。

今中さんは、わずか20年で従業員数180名(最盛期350名)、年間100万本以上の高級洋傘を細心の手作業で紡ぎ出す工場を、一代で築き上げました。異国の地での偉業は、彼の人並ならぬ情熱と執念、傘作りに人生を賭す覚悟の賜物だろうと思います。

自慢に聞こえるのを避けるため、今中さんは会社のことを語

るとき、かなり抑制をなさっておられます。しかし、数少ない言葉の端々からは、裸一貫で苦難を乗り越えてきた人間だけが語りうる、真実の言葉が見え隠れしていました。今中さんの工場を見学するのは、僕にとっての夢であり、逆に僕の期待を打ち消すリスクでもあったのです。

予想はいい面で裏切られました。満面の笑顔で私たちを迎え入れてくれる現地の社員さんたち。長い方は創業以来のお付き合いだそうで、今中さんが社員の皆さんにかけてこられた厳しくも温かい思い入れが、会社の隅々までぎっしりと詰まっています。ピカピカに磨かれた工場は、掃除しにくい階段の隅や倉庫、トイレの中にまで目が行き届いています。今中さんと作業者さんとの距離感を見ていただければわかるでしょうが、まるで我が子に諭すかのように、手取り足取り丁寧に作業を教えておられる姿に、心底感動しました。

水を得た魚のように、生き生きと傘の工程を説明してくれる今中さん。そのごつい手は、まるで赤子をあやすかのように慎重に傘の素材を扱っています。自分はこれほどまでに仕事と会社を愛したことがあっただろうか。



この距離感!



ベテランさんたちの満面の笑顔!



興和洋傘(中庭)

現地でのスケジュールは、ガイドさんやバスの運転手さんに恵まれなかったことから、常に混乱をきわめていました。それでも、参加された同友会の会員さんは、苛立ちや憤りを誰も表には出されず、ありのままを受け入れておられました。通常のツアーであればクレームの嵐ですが、百戦錬磨の中小企業経営者の、心の強さを見せていただいた気がします。

混乱のなか、全日程を通してアテンドしていただいた、今中社長とカムアクロスの中西さんには、心より御礼申し上げます。そして、異国の地で「国境を越えた『人間尊重の経営』」をゼロから構築された今中さんの壮大な夢に出会えたことに、あらためて感謝いたします。

2015年訪中レポート(廈門)

三恵ハイプレジジョン(株) 落合 良寛

今年度の訪中団の行先は、華僑の故郷福建省廈門です。日中経済交流研究会では今年度の活動方針「中国さらにアセアンに目を向け視野を広く」のもと例会を開催し、訪中地選択の論議を重ねました。中国さらにアセアンとなると華僑の存在が避けて通ることができません。そこで、華僑の故郷福建省がクローズアップされました。大山さん(大山印刷株式会社)の勧めで、同友会会員の今中さん(株式会社カムアクロス)が廈門で傘の生産工場を経営されているということで協力をお願いしました。さらに台湾領である金門島も訪問して台中最前線を視察しようということになりました。残念ながら、出発の前日に金門島から復路の船がキャンセルになり渡航がかなわない事態になりました。これも、中国なのかもしれません。こんなアクシデントの中、訪中団を受け入れていただいたカムアクロスさんには代替案(ヨーロッパの風情があるコロヌス島)に再調整していただき感謝しています。

私自身、廈門は13年ぶりの訪問です。13年前、中国での金属加工委託先を求めて、福建省福州福清市に向かいました。当時、福州へは関空からの直行便がなく廈門経由で入ります。それが初めての廈門訪問で、私の中国ビジネスの始まりでもありました。廈門は、まだまだインフラ整備の途中で、町は暗くゴミが散乱し、窓に鉄格子がはめられている古いアパートが一般市民の住居のようでした。また廈門空港は国際空港なのに、薄暗い一地方空港の様相でした。

今回の訪中団は、航空便が2週間前まで決まらず結果北京経由で廈門に行くことになります。廈門空港は美しく立派に改築され、まさしく国際空港の風貌です。翌日は日曜日のため廈門市内の視察観光です。廈門の中心部は高層ビル高層マンションがそびえ立ち、それらが周辺地域まで広がっています。市内中心部のマンション価格は、平米5万元。100平米のマンションが日本円で1億円だそうです。中国の土地バブルのことが脳裏をよぎりましたが、美しく整備されている市内を見、わずか13年間での廈門(中国)の発展の速さと人々の裕福さを感じました。

月曜日からは企業視察です。視察先は(株)カムアクロス今中社長と中国駐在の中西さんが3か月かけて調整していただいていたようです。過去の訪中団の視察先は製造業に偏りがちでしたが、同友会会員はサービス業や士業など業種が多岐にわたるため、一昨年からは製造業以外にも視察することとなっています。我々の要望を真摯にご検討いただき、視察先も多岐にわたり、かなりタイト(ぱっつんぱっつん)なスケジュールになり、大変ご苦労をかけました。そして最終スケジュール表には、なんと今中さんの中国工場が削除されているのを拝見してビックリです。早速、今中さんに何故かを問うと「傘の工場なんか見ても仕方ないでしょう」とあっさり言われます。私たちは今回のメイン視察先が今中さんの中国工場でしたので、ご無理をお願いし急遽視察日二日目の朝、予定より早く出発しカムアクロスさんの中国工場の訪問が叶いました。

今中さんの中国工場「廈門興和洋傘有限公司」は郊外の工業団地ではなく市内の賑やかな街の中に存在します。見学させていただいた第一印象は、整理整頓が行き届き綺麗の一言。そして、にこやかに挨拶してくれる女工さんたち。今中さんの社員教育が伺えます。傘の製造工程をこと細かくご説明いただき、傘作りの工程の多いことや自動化が難しく傘職人が必要であり厳しい品質管理をされているのを知りました。ミーティングルームでは経営理念が掲げられ、ここにも同友会有りと感じさせられる一コマです。傘作り一筋に情熱を注がれ、日本～台湾～香港～中国と海外を巧みに利用され立派な現地法人を築かれたのに、自社を視察先から外される謙虚さに頭が下がります。企業視察の二日間は、石材加工や物流会社、弁護士事務所、日本語を学ぶ専門学校生との交流、日本人が経営する居酒屋での昼食等々。夕食会では廈門日本商工倶楽部の大企業の現地社長と懇親させていただき、きめ細かなアテンドをいただいた今中さんと社員の中西さんには心より感謝の気持ちで一杯です。あと1時間でも今中さんや廈門興和洋傘有限公司の現地幹部社員さんのお話を伺えたらと少々心残りな欲張りな訪中視察となりました。

2015年訪中団感想文

(株)電研社 野村 明宏

今回の訪中で特に印象に残った事が三点あった。

まず一点目。

廈門という比較的経済的に豊かな観光地であることからか、中国の方々が「あくせくしていない」「人に譲る(席や順番)」「笑顔を見せる」「気を遣う」等の昔ではちょっと考えられない様子であったことだ。国際感覚に合わせるように変化してきたのか、啓蒙ポスターが貼られているように、行政からの指導なのか、理由は判らないが確実に変化してきている感じを受けた。

大きな経済力、多くの人口、広大な国土を有する中国が、人としての豊かさや寛大な周囲に対する心配り等を有する様になったとき、自由主義にとって本当に怖い存在になるのではないかと考えているので、気になった中国人の変化だった。

(そう簡単に国民性がガラリと変わるものではないだろうが)

二点目

とは、言うものの、あのガイドと運転手。

自分の仕事の本質を全く理解せずに仕事をしている。自分勝手な段取りや時間を守る事へのルーズさ。

絶えずスマホをいじっている態度。後ろに客が乗っている事を意に介していない運転。

変わってきたとは言え、表面的な状態なのかとも思ってしまう。

費用対効果の違いがはっきりしているお国柄だと改めて思う。

三点目

今回お世話になったカムアクロスの皆さんの対応の素晴らしさだ。

綺麗に整理整頓清掃されている社内外はもちろん印象に残ったが、何より働いている方々が「ここは中国か?」と思うほど朗らかでよく笑う。今中さんの姿勢がよく行き渡っている証拠だとおもう。

また、彼らのホスピタリティにも非常に感心する。様々な訪問先をご用意いただき、内容の濃い訪中となった。中でも一番感心したのは、社員の中西さんのアテンドぶりだ。ガイドの方とは比較にならないほど周囲に気を配り、通訳も全くストレスフリーで食事もゆっくりとらずに皆の先回り。

昨年の坂さんもそうだったが、「自分や弊社が逆の立場になった時、同じような対応をすることができるだろうか?」非常に学びの多い素晴らしいアテンドと感じた。

最後に、出発前の度重なるキャンセル等に翻弄され、現地ではタイトなスケジュール進行に気をもまれた訪中委員の皆様のご苦勞は、察するにあまりあります。

皆様のおかげで学びが深まりました。ありがとうございました。



2015年 10/31～1/4 厦門訪中団

(株)豊田製作所 豊田 浩二

台湾との国境の街「厦門」。石垣島とほぼ同じ緯度に位置し、台湾本島のおかげで台風も直撃しにくく11月でも半袖で汗ばむ温暖な地。そのせいかわからないが、中国の他の地域とは街と人の感じが少し違うように感じた。タクシーに防犯用のカバーもなく、街中も幾分かのんびりしていると思う。

食事は海産物が多く新鮮で味付けの好みに個人差はあるが、食材に関しては日本人に合っているのかもしれない。特産品としては、石材の町として昔から有名で、墓石など多くの石材品が日本に入ってきている。

ある企業では、製品製造からパッケージ印刷、製品封入、梱包までオールインワンでできてしまう。日本企業が工賃や人件費が云々、技術力がどうのなどと言っていない状況であるのが目の前に現実としてあると思う。

日本人は少ないようで、街中で日本語の看板を見ることはほとんどなかった。

大学の日本語学科を訪問した際は、自分たちの語学力を採点してほしいということで、演劇仕立てのプレゼンテーションがあった。日本の経営者の前でのプレゼンに緊張していたのもあるが、生の日本人に日本語でコミュニケーションをとるのが初めてなので緊張していたようで、大変好感が持てた。武漢訪中

団に続き今回も純粋な学生達と交流できたことで、報道では知りえない中国の一端を見られたように思う。

ここ数年の上海などの大都市では、民度・グローバル練度と経済発展の速度が乖離していたように感じたが、厦門はその差が他の地域よりも少ないのではないかと思う。

何はともあれ航空機が飛ばないとか、ツアー予約が前日キャンセルだとか日本ではありえないことが起こるようないい加減な人たちの国ではある。日本人にも少なからずそういった人たちはいるもので、何事も見聞きするだけでなく五感で感じないとわからないことがたくさんあると気づかされた訪中団でした。

今回、現地在住のある方の次の言葉が印象的でした。

・中国人は「利」、日本人は「理」で、韓国人は「情」で考える



訪中団感想文

福地金属(株) 福地 守

11月7日台湾馬総統と中国習国家主席の中台首脳会談のニュースが新聞に載っていた。中国大陸から台湾へのゲートウェイ厦門そして台湾金門島への訪問はまさにタイムリーなツアーになるはずだった。チケットが取れなかったと聞いたが、こんなことも影響があったのか目的の一つ金門島への渡航がかなわなかったのは残念であった。

直行なら4時間もかからないところが北京経由ということで大変ではあったが北京という地に一応足を着けることができて最初からなんとなく得した気分だ。

12時間以上かかって到着したせい、ホテルに荷物を置いてすぐに厦門を楽しみに近隣の散策に行き近所のレストランに入った。同行してくれた坂元さんの流暢な中国語で何不自由なく厦門の最初の夜をとてもおいしくしかも安く楽しめた。いつも感じるが言葉の力は大変大きい。身振り手振りには限界がある。

土曜日着の翌曜日は金門島の代わりに南普陀寺、厦門大学そしてコロンス島とのんびり散策となるはずがまたもや船のチケットが出航ぎりぎりになり走って飛び乗るということに。本当に先が思いやられる2日目。

見学先も石の加工工場、印刷屋、成型、厨房機器、プレス工場、縫製工場、学習机椅子、物流、大学生との交流会、弁護士事務所、と二日間では未消化になる多岐の見学先だった。メインはもちろんカムアクロスさんの工場だ。

今中さんの工場の門をくぐって最初に目をしたのは電光掲示板に経営理念が。その掲示板には工場の稼働状況や品質情報など目標や現状などが数値で表示されていた。工場に入ればいきなり会う人会う人全員が笑顔で挨拶してくれる。

ここ本当に中国の工場?と疑う。カメラを向けても笑顔でピースをしてくれる。本当に楽しそうに働いている。考えさせられた。昨年訪問した深圳の財布工場を思い出した。中国の人件費が上がってもっと低賃金の国に移る。海外に工場を出すというのはそういうこととどこかで決めつけていた。今中さんが言うには傘の原価の内大半が材料費、人件費が多少上がっても大したことはない。

移動するバスの中で今中さんの経営報告ヒアリングを坂元さんが迫る。アテンドさせるだけでなく移動中も休ませない同友会のすごさに感心するとともにその声が聞こえる近くの席に

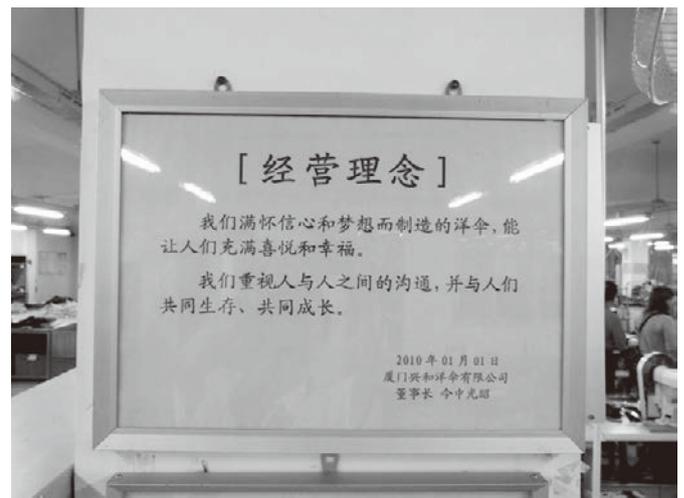
ちゃっかり座って話を聞く。お蔭でバスの中での時間はあっという間に感じる。今中さんの話をここで書けばページが足りないので興味がある人はぜひ一度お会いしてほしい。

今回の内容は多すぎてまとまりのない内容になったが、海外にでている経営者の覚悟は半端ないいつも思う。

今回のツアーでは同友会東大阪西支部のカムアクロスさんが最初から最後まで本当に親切にアテンドいただき中身のとても濃い内容だった。

訪中団幹事の皆様、一緒に行ってくれた皆様、今中さんはじめカムアクロスの皆様。

まだまだ覚悟の足りない自分にまた力を頂けたと感謝する。



訪中団感想

ソリッド(株) 徳岡 達人

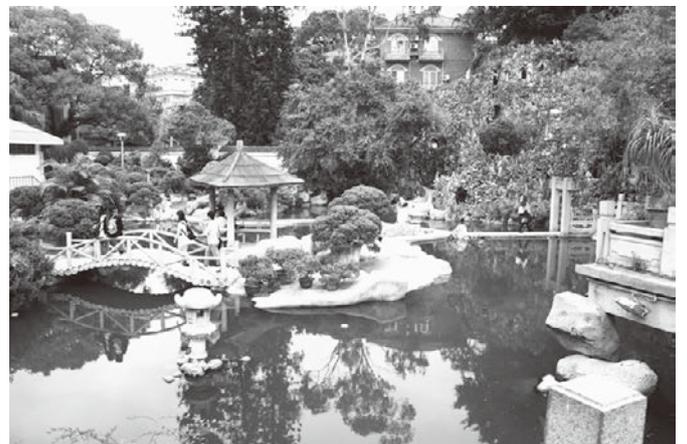
中国には、上海周辺および、広州・深圳周辺に、取引先があるため、年に数回訪問しているのですが、厦門には行ったことがなく、この機会にぜひ厦門を見ておきたいと思い、参加させて頂きました。現地で生活していられる日本人の方は、みなさん「厦門は、中国で一番生活しやすい都市である」とおっしゃっていましたが、初めて訪問した厦門は、他の中国の都市とは雰囲気が異なり、街は緑にあふれ、ゴミが少なく、クラクションの洪水もなく、大陸でありながら、台湾にいるような雰囲気のある都市でした。

初日の夜に数人のメンバーで行った、ホテルの近くの食堂は、目いっぱい食べて、ビールを飲んで、一人35元(700円)程度とあまりの安さに驚きましたが、一方で厦門島内のマンション価格は大阪市内よりも高い価格(高級マンションは1億円超)であると聞き、最近の中国の抱える、資産家と労働者の格差を再認識しました。

企業への訪問は2日間の短い日程でしたが、その中で、墓石加工、洋傘メーカー(カムアクロス様)、子供用ドレスメーカー、現地印刷会社、現地金物メーカー、大手日系物流会社、和食レストラン、大学、弁護士事務所等、幅広い業種の現場を訪問

させていただいたのは、大変貴重な経験でした。お陰様で、異国の地で立派に経営されている皆様の貴重なお話を聞くことができ、現地の経済状況や、動きを教えて頂いたうえ、ビジネスのヒントも頂くことができました。例えば、離職率の引下げは、どの会社でも、大きな課題ですが、ある会社では、副業を奨励することで、本業の繁忙による従業員の収入の不安定さを防ぎ、ある会社では、取扱商品を、短納期・小ロットの商品から、安定的に注文のある商品分野に移行することで、会社の繁忙をなくし、従業員に常に安定した報酬を支払うことで、離職率を引下げています。現地の経営者の皆さまは、ビジネスの立ち上げには想像を絶するご苦労をされ、その後も品質・労務をはじめ、日常起こる諸問題の対応に忙殺されているはずですが、そのようなことは、おくびにも出さず、謙虚にご自身のご経験を惜しみなく、お聞かせいただけましたのは、同友会ならではの視察ツアーの賜物であると、あらためて感じました。

最後になりますが、今回のツアーを運営していただいた、団長、会長はじめ委員・会員・事務局の皆様、現地での運営にご尽力をいただいた、今中様、中西様を初めとした関係者の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。



訪中団感想文

藤田 美保

初めに、同友会の会員でない私を今回の厦門行きの訪中団に参加させていただきました事に対して心よりお礼を申し上げます。

今回、私にとって初めての中国訪問の旅でした。日本とは政治的・経済的な問題が多々ありますが、日本で働いている・日本人と結婚している等の理由で日本に居住している知合いがいて、日々仲良く一緒に仕事をしたり、食事に行ったりしている立場としては、「中国の現状を知るために、中国に行かなくてはい」と常々考えていて、それが今回ようやく実現となったので、訪中団参加が決まってからは毎日楽しみに過ごしていました。

厦門でいろいろな製品の製造工場等を見学させていただき、「できればMade in Chinaは買いたくない」と今まで考えていた自分に反省しました。「Made in China」といっても日本の企業が大変な苦勞と努力の末に現地で工場を立ち上げ、日本と変わらない品質管理の下で製造して日本をはじめ世界中で販売されている素晴らしい製品がたくさんあるという事実を目の当たりにしたからです。

大阪の中小企業支援を仕事としている身にとって、海外でがんばって事業を進めていらっしゃる方々のお役に立つためには、本当にどういった支援が必要なのかを再考するきっかけとなりました(なかなか良い案が浮かびませんか)。

また、厦門大学での日本語を勉強している学生さん達との交流もとても新鮮でした。北京や上海などに比べ、日本企業も少ない厦門で日本語のクラスがあり、勉強している学生さんがたくさんいるということに嬉しさと頼もしさを感じました。将来、あの学生さん達を含めた日本語を勉強している人達が日本に関係する職場で働き、もっと日本の良いところを体験してもらえたらと思います。

初めての中国訪問という点からの感想はというと「とにかく広い!」というのが第一で、北京空港は「サンフランシスコやシカゴの空港並み(もしかしたら、もっと広いかも)」と感じました。空港や飲食店等でのサービスの悪さについては、日本を基準にして考えるとだいたいどこの国も落ちてしまうので、海外に出かける時は最初から諦めています。たまに予想に反して笑顔で対応してもらえると感激も倍増するという事を発見しました。

逆に言うと、海外でも日本でも、飛行機やお店で頼んだものを持ってきてもらった時に、海外では現地の言葉や英語でお

礼を言う気持ちを忘れずにいたいと思います。

そしてバスの車窓から街を眺めていると、工事が途中で止まったままになっている建築物がところどころで見受けられ、経済的に豊かな福建省でさえ報道されている「景気の陰り」が及んでいるのかな?とぼんやり感じました。

最後に今回の訪中団のために、現地での宿泊企業訪問等をアレンジしていただきました興和洋傘の今中社長様と中西様には大変感謝しております。

毎日のアテンドや宿泊・食事のお世話はもちろん、あれだけの企業訪問を組んでいただくのは本当に大変だったと思います。行政主催のミッションでもこんなに濃い内容はなかなか難しいと思います。食事も毎回美味しかったですし、本当にありがとうございました。

また、今回訪問させていただきました現地企業、学校、法律事務所、お店、その他、ご協力いただきました皆さまに改めてお礼をお伝えしたいと思います。

そして、訪中団の幹事をさせていただき、ご苦勞をおかけしました豊田社長様にもお礼を申し上げます。



アモイ視察に参加して

法円坂法律事務所 中島 宏治

日中経済交流研究会の視察旅行に参加したのは、久しぶりでした。10数年前に江蘇省を視察に行って以来のことです。今回は、アモイに一度行きたいと思っていたことと、ちょうどアモイの石材関係の事件を担当していて、現地で打ち合わせが必要だったことが重なり、事前に二木さんから日程を聞いていたこともあり、予定を調整して参加することにしました。

当事務所は、名古屋や東京の事務所と共同で2000年に大連事務所を開設しています。僕自身も2007年から2014年にかけて大連事務所の首席代表となり、毎月1回、大連を訪れていました。そのため、中国各地を訪問するたびに、大連と比較しています。

大連とアモイは、中国が改革開放政策を打ち出した初期の頃から、経済特区(アモイ)あるいは経済技術開発区(大連)として重点的に開発された地域です。そのため、外資受け入れが進み、発展していった都市であるという共通点があります。

他方で、大連が電化製品や金属製品の製造拠点となっていることに比べて、アモイは委託加工によって完成した製品を輸出する貿易の拠点となっているという違いがあります。そこでは、現地工場の管理の必要性が増えていき、日本人が自ら経営するようになったパターンができたという印象がありました。訪問先の縫製工場の土井さんなどは、その典型例だろうと思います。

今回は、訪問先に現地の法律事務所も入れていただきました。盈科律師事務所は、北京に本拠を置き、中国各地にたくさんの支店をおいている、中国でも有名な事務所です。日本人マネージャーがおられて、日本対応ができていることに感心しました。僕の知っている法律事務所でも、日本人スタッフを置いているところが結構あります。だいたいそのような事務所では、「日本部」を置いて日本語ができる弁護士を複数配置し、共同で案件にあたっています。盈科律師事務所アモイ支所でも、王先生(不在でしたが)を中心に日本チームができて対応に当たっていました。大連は、日系企業の相談は労働問題と撤退がほとんどなのですが、やはりアモイも同様でした。今回の訪問後、早速、日本人マネージャーの大藪さんにメールを送り、今後の情報交換をすることになりました。訪問先に入れていただいで感謝しています。

僕は、これまで、日中友好経済懇話会(京都同友会)、京都

商工会議所、国際貿易促進協会京都総局、日中経済貿易センター、IBPC大阪などの各団体の視察旅行に参加していますが、久しぶりに大阪同友会の日中経済交流研究会の視察旅行に参加して、やはりいいなあと思いました。道中にぎやかで、遠慮なくいつでも質問するし(政治的課題であっても)、メンバーが手作りで企画して一緒に楽しもうという雰囲気がいいですね。移動中のバスの後ろで、今回お世話になった今中さん(興和洋傘有限公司)に対するインタビューが行われていて、まるで例会報告を聞いているようでした。人生の転機のときにどのような決断をしていったのかが伝わる、テーブル討論をしたくなるような報告で、同友会つまくて良かったです。

最後に、アモイの感想を一言。現地の皆さんがおっしゃっていたように、魚が美味しく、気候が穏やかでとても住みやすいところでした。もう少し華僑の街、というイメージもあったのですが、それほど強くは感じませんでした。あと、コロンス島が良かったです。カートの後ろの席に乗って揺られて走ったことがいい思い出となりました。

また来年も参加したいと思います。世話役の皆さま、どうもありがとうございました。



2015年訪中団(厦門)に参加して

K総合会計 大塚 教進

今回は訪中団結団式を終えて、厦門空港に直接飛ばないことが判明し、中国ならではの出来事が多発しそうな気がしました。

その通りのアクシデントが数多くありました。現地のガイドの引率・振る舞い、更に私も二点の失敗がありました。

この振る舞いも一つの思い出にしたらと語る人がいて、包容力のある人だと感動いたしました。

中でも今回大変お世話になりました興和洋傘の(株)カムアクロス今中代表、そして、同社の現地の案内役の中西さんには何かとご迷惑をおかけいたしました。感謝と感動で一杯です。

日東花園酒店(ホテル)に忘れたジャケットを団長より今中さんに手配していただき無事に11月13日(金)に事務所に届きました。

また、カメラのメモリー残が不足し、ホテルのフロントにお願いしても、この厦門には海外客が少ないのか、日本語の通じる人はいなく、スマホで翻訳しても通じない。

そんな時に中西さんに説明して、趣旨が解り購入して届けて頂きました。

今回も数多くの視察がありましたが、厦門興和洋傘有限公司

の経営の素晴らしさに驚きました。私自身に勇気を頂きました。

昨年、深圳で見学した財布工場の代表は「中国は毎年最低賃金が上昇して経営はできない」と近くミャンマーに行く手配をしていました。

そのことは、興和洋傘でも同じと条件と思います。

その中で付加価値をつけて日本に輸出する。もちろん、製造はといいますとメイドインチャイナです。工程を代表自ら説明していただきましたが品質にこだわります。

従って、写真の撮影は許可しますがネットには流さないでください、とチャックされました。

自立的で「質の高い企業」が活かされています。

経済環境だけでなく、自然環境、社会環境にも配慮する。40個～50個のパーツからできている。

傘はデリケートで、使いやすさ、耐久性の向上を研究されている。長持ちのために何が必要なのか。私達のみ写真撮影が許された理由がわかります。

大学生との交流は大変勉強になりました。武漢でも大学生との交流があり人柄がよくわかります。有難うございます。

2015年訪中団(厦門)に参加して

大山印刷(株) 大山 武久

2009年11月、初めて蘇州を訪問してから6年の年月が経過しました。僕の訪中の目的もずいぶん変わったものです。2009年の訪中は、見るもの聞くもの食べるものすべてが珍しく、そして日本で見聞きすることが、必ずしも正解ではないことに気づきました。銀行の前でたむろする坊主頭の男に10000円を渡し700人民元くらいと両替しました。

訪中の目的は、生産拠点を探そうと、中国の印刷会社を巡るものでした。当初の印象は「できる。できる」というわりには実際工場を見せてもらう「無理」というものでした。やがて、訪問先の設備と技術は、僕が子どものころ見たような程度になり、僕が働き出したころの程度になりました。今回は、ある程度の水準に達していました。

製品の質は向上しましたが、円安(10000円⇒500人民元)と中国の人件費高騰、日本の発注数激減などの影響で、今や

僕のような会社では中国へ生産を移管する意味を見いだせなくなりました。

そうすると訪中の目的は何になるのだろうか?生産拠点、販売ルート、同友会会員の活躍を見る…どうしようもないガイド、バスの運転手や回遊魚(会社から会社へと渡り歩く労働者)との出会い。「なんでや」の連続。異文化との交流には「何で?は必要ない」という居酒屋の経営者の話。そうすると、相違な価値観を押し付けるのではなく、相容れないということ共有するしかないのだろう。そうなることが、日中の利益共有かもしれない。こちらの思考を理解したらいいという考えの先には、利益共有はないと思う訪中団になりました。

訪中団の目的は各人いろいろあります。僕にとっての訪中の目的は、羊肉を食べながら満天の星空の草原で自由に未来を想像するものになるかもしれない。

訪中団初参加の感想

赤木法律事務所 赤木 麻衣子

今回、初めて訪中団に参加しました。

近年、何かと中国との関係性が話題となることが多い中、当事務所でも中国人のお客が増えています。

テレビや新聞等で見聞きする中国と、中国人のお客様から聞く中国の印象が大きく違います。厦門は、経済特区に指定されており、中国政府が今最も開発に力を入れているという話を聞き、今の中国を見てみたいと思い参加を決めました。個人旅行では行きにくい金門島へ行くということも、訪中団ならではの。しかし、金門島はハプニングにより行けませんでした。

以下、随筆風ではありますが、感じたことを中心に記していきます。

〔厦門の印象〕

人がゆったりとしており、町を歩いても、人とぶつかることがほとんどありません。

地下鉄、高速道路などの工事がそこかしこで行われており、厦門に限っては未だバブルだと感じました。

特に、現地人の話によると、マンション価格が高騰しており100㎡のファミリータイプは、お手頃なものでも日本円で4,400万円、中心地だと1億円超えも。もともと厦門に住んでいる厦門人は、不動産の転売で儲け、多額の資産を保有していることから、働かなくても悠々自適の生活をしており、これが厦門がゆったりとしている原因のようです。

反面、外部から厦門に移ってきた人にとっては、不動産は高すぎて購入できず、厦門人とその他の経済格差が広がっています。

あと、外国人訪問客が少ないという印象でした。英語もあまり通じず、大都市のように見えませんが、実際には一地方都市の域を出ないのかなと感じました。

〔訪問先について〕

カムアクロスさんへの訪問では、徹底した品質管理の点が印象に残っています。

実際に工場を見学させてもらうと、品質を保持するため、検品の連続。手作業によるところが多く、中国での製造が苦労の連続であったことが解ります。仕事を真面目に丁寧にするという以前のレベルであったため、入社時に自社寮に住まわせ、布団のたたみ方や、部屋をかたづけることなど、人間の基本から徹底して教え込んだそうです。

また、厦門は石材加工会社が多く、日系の石材加工会社も

訪問しました。100%が日本への輸出で、日本では高齢化社会に伴い、死亡者数が増加しているにもかかわらず、墓石の需要は激減しており、最盛期の1/10の受注とのことで、意外な感じでした。

その他、複数の製造業の工場を見学しましたが、残念なことには、日本製の設備がなく、ほとんどが中国製でした。工場労働者の賃金は、法律上必要とされる最低賃金が1300元、これに残業代等を合わせると、日本円で月4万円～6万円程度である模様。基本給にプラス、歩合給制を取り入れている会社が多いようです。これは、日系企業の日本人管理者によると、「言われたこと以外はしない」「自ら進んで仕事をするということはない」という特性があり、これを解決するために歩合給制は必要との話であったが、反面、製造業においては、数をこなして給与をUPするために、作業が雑になるとの問題もあるようです。

他方、日本は、中国を電子レンジだと思っているとの厳しい意見もありました。納期は短く、品質にうるさい、価格を値切る、日本の仕事はしたくないという現地工場も多いとの意見でしたが、ここは、埋められない感覚の差なのかも感じました。

現地の法律事務所も訪問しました。グループ全体で3000人の弁護士を抱える大手事務所でしたが、質疑の中で浮かんできた疑問は、表現の自由、思想良心の自由はあるのか？言論統制はあるのか？法の支配は？弁護士自治は？そもそも日本の憲法に該当するものはあるのか？等々でした。訪中の前に、胡金定先生と食事をした際に、先生は「中国には表現の自由も、思想良心の自由もあり、特に規制はない」とのことでしたが、現地法律事務所での質疑を通じて、規制はあるし、法の支配は機能していないという印象を受けました。これらの点は非常に興味深く、憲法を最高法規とする日本との違いを研究することで、より中国を理解することが出来ると感じましたので、帰国後から早速、数冊の関連書籍を読んでいます。

最後に

金門島へ渡るフェリーは手配ミスで取れていない、バスは遅れる、通訳兼ガイドは役にたたず、通訳を放り出し一日中携帯で誰かと話しているという始末で驚きましたが、これもまた中国の一面を知る良い経験だったと思います。

日中経済交流会 2015訪中団に参加して ～廈門市内工場見学とコロンス島～

西岡化建(株) 西岡 洋子

総勢20名。内女性は6名というコンパクトに動きやすいメンバーで、今年も訪中団が結成されました。久しぶりに参加を決めたのは、誘ってくれる友人とともに見聞する楽しさが思い浮かぶからです。

我が国と中国との関係は、少し近づいたかと思うと、また減多突きにされるという因縁にあります。過去を振り返ると日本が起こしたおぞましい歴史にも綴られますが、首相は決して確かな謝罪をしない、その是非論は別として、経済交流においては助け助けられ、密着した関係を保ってきたと言えます。弊社においても中国からの外国人研修生の受け入れにより、若い働き手が下支えをしてくれて、3K産業の求人難を救っています。

廈門は華僑の町。海を渡る商人たちが琉球、薩摩を伝って日本へ物資を運び交易をし、そのまま居ついた人が華僑と呼ばれたとか。コロンス島はイギリスの軍隊が中国侵略のはじめにここを占領し、西洋の文化を落としていったところ。廈門は1842年アヘン戦争後の南京条約で開港され、かつては欧州の領事館も置かれていたそうで、洋式建築の赤レンガが目立ちます。

旅行に先立ち、習近平国家主席がイギリス訪問で国を挙げての大歓迎でもてなしを受け、エリザベス女王の馬車に同乗するなどの光景が伝えられました。あらかじめ女王はアヘン戦争を勃発させた責任において中国に謝りたいと言われていたとか。そして中国マネーの経済協力は7兆5千億円にのぼり、原子力発電所設置に投下されるというニュースを知りました。国の統制力は組織によりこんなに違うのかと、高層建築の林立する街並みに感じました。

滞在中、日本人の経営する廈門工場数種の見学、大企業の駐在員との懇親、日本を学ぶ学生との交流、そして現地法律事情を伺う弁護士事務所の訪問など、多岐にわたる日程を計画し、案内していただいた今中社長、社員の中西さまに心より御礼申し上げます。洋傘工場のきちんとしたしつけはさすがでした。

月刊OSAKA中小企業家、編集後記に雑感を述べさせていただきました。

〔追記……12月1日号編集後記〕

日中経済交流研究会の仲間とともに、中国、南の海岸線に位置する廈門市を訪問した。

日本は肌寒い季節となっているが、ここは向かいが台湾といところ、温暖な気候で過ごしやすかったが、道行く車はすべて埃をかぶっている。

最近のテロの多さからか、異常なほど厳しい身体検査と荷物検査を受けて搭乗したが、帰国後ロシアの飛行機がISに追撃された事件を聞き、無事であったものの身震いがした。

2010年上海万博のときに訪中団に参加してから5年目の訪問。元は4割増しレートとなり、所得倍増で労働者平均給与も現況3000元～高所得者5000元(10万円)という。2006年から外国人研修生制度に取り組んだ当社の事例でいえば700元(当時の日本円で9,800円)の月収の人が20倍近く稼げた日本ドリームがあった。それが15倍、10倍、3倍となり、いずれ日本に来て技術研修だけでは魅力のない時代になる。

日本から進出した企業も人件費高騰でコストオーバー。福建省、廈門に進出した日本企業の3分の2が撤退したと案内ガイドは言う。この後中国は世界の工場ではなくなり、生産拠点はベトナム、ミャンマーへと移っていくであろう。しかし日本も過去には同じことがあった。賃金が安いからを理由に使われる立場は、激変していく。



謙虚な謙虚なデッカイひと =カムアクロス現地工場訪問記=

坂元鋼材(株) 坂元 正三

今年の訪中団の目玉は、何と言っても今中さんの会社「カムアクロス」の厦門工場でした。工場を見学できただけでなく、バスの車中では今中さんを後部座席で独占し、生い立ちや起業してからのご苦労などを根掘り葉掘り聴きました。さながら「アモイ今中塾」。その模様を以下にまとめます。

今中さん(49)は1966年、裕福な事業家の家庭に生まれます。しかし、お父様の急逝と会社の倒産という事態を少年時代に経験します。専門学校に行きながらアルバイト先を選んだのがたまたま傘屋さんでした。当時の高卒初任給より高い給与に惹かれたもので「よしまな気持ちで入った」とは今中さんの弁。しかしその出会いが今中さんの人生を変えることに。

会社では今中さんの懸命な働きぶりが認められます。中国や台湾から傘を仕入れていたため、若いころから中・台を行き来します。今中さんの活躍もあり売り上げは順調に伸びたのですが、資金繰り難から会社はあえなく倒産。

その後、阪神大震災のあった1995年に傘の製造を目的に今中さんは起業。それが現在のカムアクロスです。29歳の時でした。当時はまだ日本のどの傘屋さんにも中国工場を持っていませんでした。「へそ曲がりなので『やってみよう』という安直な発想」(今中さん)から広東省の東莞(トンガン)に工場を作りました。そして2001年からはここ厦門に移転。しかしその時、当時最大の販売先だった会社が倒産し1億2000万円の引っ掛かりが発生、大きな経営危機に陥りました。可愛がってもらっていた仕入れ先の台湾人・陳社長に相談すると「大丈夫か?」とだけ聞かれて、仕入れ代金8000万円の支払いを猶予してくれました(金利も取らなかった)。おかげで窮地を乗り切ります。紆余曲折の末に工場を軌道に乗せ、現在では年間100万本の傘を生産しています。

その波乱万丈の一代記を私が初めて聞いたのは3年前になる日中経済交流研究会の例会でした。笑いあり涙ありの今中さんの半生を聴いて大いに感銘を受けたことを今も鮮明に覚えています。だから今中さんの工場を、この目でどうしても見たかった。

初めて見る今中さんの傘工場の印象はさわやかなものでした。働く工具さんの目が真剣で、そして礼儀の正しいこと。過去の訪中団でさまざまな企業を見てきましたが、その中でもきわめて強い印象を受けた工場でした。傘を作る工程は裁断、ミシン、針仕事、そして一つ一つの検品など手作業によるものが多く、根気のいる作業に違いありません。一心不乱に作業しているおおぜいの工具さんたち。そして私たちに見せてくれる柔らかな笑顔。今中さんの工場経営が素晴らしいものであることが見

て取れるようでした。

しかしここまで来るのは決して一朝一夕のものではなかったようです。今中さんは「何にもでけへんかった小学生のような子たちに生活の基本からしつけました。「食べ残しするくらいなら、初めから少なく取ること」など、口酸っぱく注意して習慣を正してゆきます。そして傘づくりの専門技術を教え込み、多くのベテラン社員を育てました。

この厦門工場はいま178名。そのうち直接は傘の製造に携わらない事務や仕入れ、守衛などの間接部門が60名。でも今中さんによるとその全員が「傘」という商品に意識を集中させているようです。

「たとえばうちの守衛に『何の仕事をしてるの?』と聞いてみ。ほんなら『はい私は傘を作ってます』と答えよ」とのこと。社員の気持ちを一つにまとめた経営手腕がここでも垣間見えます。

「今の自分があるのは台湾の陳社長やご縁をいただいた人たち、そして弊社社員のおかげ」と今中さんは振り返ります。

人なつこい大阪弁(河内弁)丸出しで飾らない人柄の今中さんの話は、本当に聞き手に良く「伝わる」ものです。なぜなのかと考えてみると、それは今中さんの話が人からの聞きかじりや書物からの借り物などではなく、裸一貫からご自身で切り開いてきたその半生からにじみ出たものだからなのだと思います。「ぜんぶ独学やった」と今中さん。

さて今回の訪中団・厦門ツアーでは、今中さんだけでなく社員の中西さんや運転手の黄さんなどカムアクロスの皆さんに本当に親切にしてもらいました。おかげで数多くの企業、大学などを効率よく視察することが出来ました。

しかし当初、その企業視察の行程に肝心の今中さんの工場が入っていませんでした。「私たちはこれをメインに考えているんですよ」と今中さんを口説き、タイトな日程をやりくりしてようやくカムアクロスさんの見学を入れてもらいました。「傘屋なんて見てもしょうがない」と自社の工場視察をルートから外していた今中さん。10数年も苦労して育て上げた厦門工場。その現地に我々同友会の仲間が来ているのだから、普通はみんなに見てもらいたいはず。それを今中さんはどこまで遠慮されるのか。そのデッカイ体にとことんとことん謙虚な心を宿したお人なんだと感動しました。

こうした人物とひざ詰めでお付き合いできることが同友会の魅力の一つ、そして訪中団の素晴らしさの一つです。

今中さん、社員の皆さん、本当にお世話になりました。いいものを見せてもらいました。ありがとうございました。

訪中団参加の皆様へ

三和防錆工業(株) 熊谷 蘭子

お疲れ様でした、この度初めて参加させて頂きました。
初日から娘のカバンの件で皆様にご迷惑かけて申し訳有り
ませんでした。
20年振りの中国でしたが、余りの変わり様に驚きました。
国営から民営化され活気が溢れていましたので……。
今回、訪中したアモイで寺院、企業、大学等を見学させて貰
いましたが、中国の市場も日本に劣らず先進しておりました。
洋傘製造の今中社長様には、企業訪問から夜の食事まで
お付き合いして頂き、一緒に参加した娘たちも楽しんで居りま
した。

中国の人は、愛想が悪いですが今中社長の所の従業員は
とても愛想が良くホッとしました。社長の躰が良く出来て居るで
しょうね。

訪中で気が付いたのですが、日本の企業の様々な業種
の方が進出されて頑張っているのに思い知らされました。私
達も頑張ります。

又、機会が有りましたら参加させてください。

2015年 訪中団(厦門)

アベル(株) 居相 浩介

今回で4度目の訪中団参加となりました。福建省南部、台
湾海峡を隔て台湾と向かい合い、華僑の故郷と言われる「厦
門」とは、どんな街なのでしょう。
しかし、出発前からトラブルに見舞われた訪中団。厦門航空
の突然の運行中止で、北京経由の乗継便にて厦門へ向か
うことが決まったのは、2週間前。
更に前日には、目玉であった金門島(台湾領)訪問がキャン
セルに。
台湾ドルの両替をいくらにするかという小さな心配事はすっ飛
びました。
北京での長時間の乗継ぎを経て、ようやく厦門に着きました
が、1名の預け入れ荷物がロストバゲージ。後で分かった
ことですが、どうやら予備バッテリー(リチウムイオン電池)が
引っかかったようです。国際線では問題ないのに、中国国内
線のほうが検査の目が厳しいようです。同じ日(10/31)にロ
シアで航空機爆発事故が発生しているので、仕方ないことな
のかもしれませんが。
南普陀寺、厦門大学訪問ののち、コロンス島へとフェリーで
渡る予定でしたが、出発時間が迫る中、なかなかチケットが
手に入らない。もう半分諦めたところに、ガイドが到着。間一
髪で全員フェリーに乗船成功。スリル満点でした。

さて本題の視察先についてですが、(1)厦門は石の産地で、
日本向けの墓石が作られていました。海外から石を輸入して
加工することもあるようです。(2)印刷工場には、最新の印
刷機が導入され、品質の良いパッケージ品が仕上がっていま
した。(3)物流会社は日系の電子部品を中心に取引してい
るようです。若い日本人副総経理がこれからどんな会社へと
変貌させていくのか。期待大です。(4)カムアクロスさんの
洋傘工場は、最新の印刷機と笑顔にあふれた従業員の方々
が作り出す繊細な手作業で高級ブランド品を生み出す、素
晴らしい工場でした。(5)現地の大学では、日本語学科の
学生が日頃練習した日本語で、ビジネスの一場面を披露して
くれました。学生の一生懸命な姿はとても爽やかな気持ちに
させてくれました。こんな交流もいいですね。(6)弁護士事
務所では、唯一の日本人マネージャーに、中国でのトラブル
事例を学びました。日本人の常識はやはり通用しないようです。
私と同じ八尾出身のカムアクロス今中社長、訪問先のアテン
ドをして下さった中西さん、大変お世話になりました。
訪中委員としては色々トラブル続きで、初めて参加の方には
申し訳ありませんが、話のネタには困らない訪中団。今回も
多くのことを学ばせて頂き、ありがとうございました。